

自殺総合対策事業の概要(令和元年度～令和5年度(12月末現在))

	事業No.	施策	令和5年度(新規・継続・拡充)	事業名	事業概要	実績					現状と課題
						令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(12月末現在)	
相談支援事業	1	個別	継続	こころといのちの寄り添い支援	自殺未遂者再企図防止事業 救命救急センター・警察・消防・生活保護担当者等から紹介された自殺未遂者及び家族等に対し、面接・訪問・電話等により支援を行う。 また、関係機関等と連絡調整を行い、地域における支援のネットワークを構築する。	実人数:58名 (うち新規33名) 延相談件数:680件	実人数:66名 (うち新規34名) 延相談件数:905件	実人数:77名 (うち新規33名) 延相談件数:922件	実人数:39名 (うち新規:14名) 延相談件数:676件	実人数:40名 (うち新規:26名) 延相談件数:539件	【現状】 新潟市民病院、新潟大学医学総合病院からの紹介が90%以上を占めている。継続的に事業説明と実績報告を行うことで円滑に事業を実施している。また、ケース連絡等を通して、関係機関との連携を図ることができている。 【課題】 「支援を希望しない」「支援開始後に連絡が途絶える(拒否)」ケースが一定数ある。特に、支援開始前後に拒否するケースについては、その後のフォローが難しい。支援が拒否されないよう、支援方法の工夫などを検討する必要がある。 若年層のケースが多くなっており、紹介ケースの低年齢化も進んでいる。義務教育課程以外の若年層について、地域のつなぎ先がなかったり、つなぎ先を紹介しても拒否されるなど、ケースのつなぎ先について苦慮することが多くになっている。 継続した専門相談員の確保が難しい。
	2	個別	拡充	くらしとこころの総合相談会	こころの健康や借金等の問題に、弁護士・保健師・薬剤師・精神保健福祉相談員等が対応するワンストップの総合相談会 ・定例日…毎月第3金曜日 17時30分～20時30分 ・拡大日…9月、3月 第3金曜日 14時30分～20時30分(令和元～4年度) 10時30分～19時30分(令和5年度) ・区開催日…9月 西区、3月 東区 13時～17時	開催回数:14回 延相談人数:96名	開催回数:13回 ※新型コロナウイルス感染症の影響により1回中止 延相談人数:103名	開催回数:14回 延相談人数:99名	開催回数:14回 延相談人数:121名	開催回数:10回 延相談人数:75名	【現状】 第3金曜日の定例開催を続けてきたことで事業は定着されつつある。相談状況については、予約数に対して約9割の相談者数となっている。本事業の情報入手先としては「チラシ・ポスター」「市報」との回答が多く、また、「広聴相談課・区役所からの紹介」といった関係機関等に紹介され相談予約をする相談者も多い。令和5年度からは、働き盛りの年代のみならず、高齢者層や子育て世代等も相談会を利用しやすくするため、9月及び3月の月間については、時間の拡充を行い実施した。 【課題】 今後も、さらに予約枠に対する充足率が伸びるよう、開催時間や会場等を検討していくとともに、関係機関と連携しながら周知の強化を図っていく。
	3	個別	継続	こころといのちのホットライン	平日の日中に相談することが困難な市民を対象に、平日の夜間や休日に電話相談を実施	延件数:11,923件	延件数:7,179件	延件数:7,939件	延件数:7,288件	延件数:6,568件	【現状】 こころといのちのホットラインでは、発信番号非通知の無言電話が増えてつながりにくくなっていったことから、令和元年5月8日より非通知電話の着信拒否を実施。さらに同一相談者からの無言電話や頻回電話が続いたため、同年7月16日より、一人当たりの1日の相談回数に制限を行った。これにより緊急性の高い電話相談もタイムリーに対応が可能となった。 こころの相談ダイヤルとこころといのちのホットラインの電話相談事業は、今後も早期に相談につながれるよう、周知に努めながら継続していく。
	4	個別	継続	こころの相談ダイヤル	深夜等の時間帯に、新潟県と共同で、業者委託の電話相談を実施(こころの健康センター、こころといのちのホットラインと合わせ、24時間365日体制の電話相談となる。) 平成29年度～回線を1回線から2回線に増設	延件数:2,503件	延件数:2,360件	延件数:2,013件	延件数:2,457件	延件数:1,537件	【現状】 令和3年3月は自殺関連のキーワードを検索した方に対して「こころの健康についての電話相談」の市ホームページを表示するのみだったが、令和3年4月以降はDVや子育て、児童虐待、生活困窮に関するキーワードを検索した方にもそれぞれの内容に応じた市ホームページを表示させるようにして、相談窓口の周知強化を図っている。 令和3年8月から「インターネット・ゲートキーパー事業」を開始。相談者の7割が10～30代となっており、若年層の自殺対策となっているが、幅広い年代層の相談がある。 【課題】 インターネット・ゲートキーパー事業として、地域につなぐ際に、つなぎ先への事業周知がされていない場合もあり、連携がスムーズにいかないことがある。特に行政職員につなぐ際は、異動等で担当が変わるため、毎年度、事業説明が必要と感じている。
	5	個別	継続	ICTを活用した相談体制の構築	●検索連動広告を活用した相談窓口周知強化(令和3年3月1日～) 自殺関連のキーワードをGoogleで検索した人に、相談窓口の情報を表示する。 ●インターネット・ゲートキーパー事業(令和3年8月1日～) 自殺関連のキーワードをGoogleで検索した人に、相談サイトを表示し、相談サイトからメールやチャットで相談を行う。	—	広告表示数:16,455回 広告クリック数:1,302件	広告表示数:218,026回 広告クリック数:12,573件 メール等実相談者数:85人	広告表示数:203,229回 広告クリック数:17,398件 メール等実相談者数:124人	広告表示数:146,888回 広告クリック数:13,573件 メール等実相談者数:95人	【現状】 令和3年3月は自殺関連のキーワードを検索した方に対して「こころの健康についての電話相談」の市ホームページを表示するのみだったが、令和3年4月以降はDVや子育て、児童虐待、生活困窮に関するキーワードを検索した方にもそれぞれの内容に応じた市ホームページを表示させるようにして、相談窓口の周知強化を図っている。 令和3年8月から「インターネット・ゲートキーパー事業」を開始。相談者の7割が10～30代となっており、若年層の自殺対策となっているが、幅広い年代層の相談がある。 【課題】 インターネット・ゲートキーパー事業として、地域につなぐ際に、つなぎ先への事業周知がされていない場合もあり、連携がスムーズにいかないことがある。特に行政職員につなぐ際は、異動等で担当が変わるため、毎年度、事業説明が必要と感じている。
事業推進体制	6	総論	継続	自殺対策協議会	自殺防止対策に関わる関係機関・団体等で構成する自殺対策協議会を設置し、自殺総合対策の推進を図る。	開催回数:1回 出席委員数:18名	開催回数:1回 出席委員数:14名	開催回数:1回 出席委員数:19名	開催回数:1回 出席委員数:15名	開催回数:2回 出席委員数:32名	【現状】 第2次行動計画に従い、自殺対策事業を実施。 令和3年度には、第2次行動計画の中間評価を実施。 令和5年度に、第3次行動計画の策定をする。
	7	個別	継続	若年層における自殺対策ワーキングチーム	若年層の自殺の現状や課題についての情報共有及び教育委員会と連携した対策の検討を行い、自殺対策の強化を図る。	—	開催回数:3回 出席委員数:9名	開催回数:3回 出席委員数:9名	開催回数:3回 出席委員数:9名	開催回数:1回 出席委員数:3名	【現状】 若年層における自殺対策協議会作業部会(平成27～30年度)において、大学生を対象とした事業の検討をしてきたが、教育委員会等の学校関係者と連携して取り組みを進めていくことが課題となっていた。 そこで、令和2年度からワーキングチームを立ち上げ、児童生徒の自殺対策について、教育委員会等と連携を図りながら、具体的な取り組みを検討していた。令和4年度からは、「教職員向け人材育成プログラム」について協議検討し、令和5年度に人材育成プログラムを作成した。 【課題】 今後も、教育委員会と連携した取り組みについて検討し、人材育成プログラムの活用方法やモデル研修の実施等について検討する必要がある。
	8	総論	継続	自殺総合対策庁内推進会議	自殺防止対策について庁内関係各課で情報を共有するとともに、庁内のネットワークを構築し、自殺対策の強化を図る。	—	開催回数:1回 開催方法:書面会議	開催回数:1回 開催方法:書面会議	開催回数:1回 開催方法:書面会議	開催回数:1回 出席委員数:32名 開催方法:対面会議	【現状】 第2次行動計画に従い、自殺対策事業を実施。 令和3年度には、第2次行動計画の中間評価を実施。 令和5年度に、第3次行動計画の策定をする。
	9	総論	継続	自殺対策実務者ネットワーク会議	自殺予防対策に取り組む関係機関・団体との連携を強化し、顔の見えるネットワークを構築するとともに、協働できる事業について企画・検討等を行う。	開催回数:5回 参加者数:64名	開催回数:5回(Web会議) 参加者数:46名	開催回数:5回(Web会議) 参加者数:54名	開催回数:5回(Web会議) 参加者数:52名	開催回数:4回(Haiprint会議) 参加者数:50名(延)	【現状】 自殺対策に取り組んでいる関係機関・団体における実務者レベルの連携を強化し、お互いの理解を深め、本市の自殺対策における課題の共有等を行っている。 【課題】 今後どのように連携して活動を展開していくか、現状や方針を検討し、取り組みを進めていく。

自殺総合対策事業の概要(令和元年度～令和5年度(12月末現在))

	事業No.	施策	令和5年度(新規・継続・拡充)	事業名	事業概要	実績					現状と課題
						令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(12月末現在)	
人材育成事業	10	個別	継続	自殺予防ゲートキーパー養成研修会	ゲートキーパー養成研修会として ・市民向けの研修会 ・教職員向けの研修会(教育委員会と連携) ・若年層の支援者向け研修会 等を実施	《自殺予防のためのゲートキーパー養成テキストを活用した研修会》 薬剤師向け:1回 保健師、ケースワーカー向け:3回 多職種向け:2回 その他:4回 参加者数:延180名	《自殺予防のためのゲートキーパーテキストを活用した研修会》 保健師、ケースワーカー向け:3回 県立高校教員向け:4回 参加者数:延143名	《自殺予防のためのゲートキーパーテキストを活用した研修会》 県立高校教員向け:4回 地域包括支援センター職員向け:1回 若者支援機関職員向け:3回 その他:1回 参加者数:延230名	《自殺予防のためのゲートキーパーテキストを活用した研修会》 県立高校教員向け:5回 その他:8回 参加者数:延 261名	《自殺予防のためのゲートキーパーテキストを活用した研修会》 県立高校教員向け:1回 その他:2回 参加者数:延 34名	【現状】 自殺予防のゲートキーパー養成研修テキストを活用し、様々な職種・支援者を対象とした研修会を継続的に実施している。 【課題】 ゲートキーパー養成研修について、今後、研修後のフォローアップの仕組み作りなど段階的な研修会の検討が必要である。
	11	個別	継続	自殺対策研修会(医療・福祉関係者向け)	医療・福祉関係者を対象に、自殺防止に関する知識の普及と地域のネットワークの構築を目的に研修会を実施する。	開催回数:1回 参加者数:79名 講演テーマ: ギャンブルが破滅をもたらす時—ギャンブル依存症と自殺	開催回数:1回 参加者数:59名 講演テーマ: うつ蔓延社会をうつ円満社会へ～生きる力がわいてくるメッセージ	開催回数:1回 参加者数:33名 講演テーマ: コロナ禍における心の危機への早期対応:メンタルヘルス・ファーストエイドの活用	開催回数:1回 参加者数:52人 講演テーマ: 地域でできる自殺予防～若者の自殺急増の要因と対策～	開催回数予定:1回 予定日:令和6年2月24日 講演テーマ: 精神科医からみた高齢者の精神疾患の諸相と自殺のリスク	【現状】 医療・福祉関係者が持つ共通の課題や連携強化等をテーマとし、研修会を継続していく。
	12	個別	継続	庁内職員向け研修会	市の窓口担当職員を対象に、自殺のリスクの高い人と接する際の「気づき」や「接し方」等について知識向上を図るため、研修会を実施する。	《市窓口担当者等向け研修会》 回数:2回 参加者数:32名 講義テーマ: 【基礎編】自殺の基礎知識 【応用編】ゲートキーパーについて グループワーク	《庁内職員向け自殺予防ゲートキーパー研修会》 回数:1回 参加者数:34名 講義テーマ: ・自殺予防ゲートキーパーについて ・つなぎ先について学ぶ	《庁内職員向け自殺予防ゲートキーパー研修会》 回数:1回 参加者数:17名 講義テーマ: ・自殺予防の基礎知識 ・自殺予防ゲートキーパーとして大切なこと～支援者のセルフケア・ラインケアについて～	《庁内職員向け自殺予防ゲートキーパー研修会》 開催予定回数:1回 参加者数:21人 講義テーマ: ・自殺リスクの高い人への気づき・接し方について ・自殺の反対語を考える ・IDOBATA	—	【現状】 庁内職員向け研修会については、市民と接する庁内職員がゲートキーパーとなれるよう、自殺予防の基礎知識などをテーマに実施してきたが、アンケート結果等を見ると、自殺予防に特化した内容というより、メンタルヘルスに関する講義を望むものが多かった。現在、他の所属や民間団体が実施しているメンタルヘルス研修が多いため、今後、自殺予防に特化した庁内職員向け研修会の実施について検討していく。
	13	個別	継続	10代の若者の生きづらさを考える支援者向け勉強会	若年層対策について、現状や問題意識を共有し、それぞれの価値観を理解するとともに、それぞれの関係機関・団体における強みを認識し、支援者同士のネットワークの構築を図るため、若者の支援者向けに研修会を実施する。	回数:1回 (主催) 第1回:市薬剤師会 参加者数:80名 ※新潟市主催の研修会を企画したが新型コロナウイルス感染症拡大防止等の理由により中止	回数:1回 (主催) 第1回:新潟市 参加者数:33名 ※Web開催	—	名称を変更し実施。 「いのちを守る超連続勉強会」 回数:1回 主催:新潟県弁護士会 参加者:39名	「いのちを守る超連続勉強会」 回数:1回 主催:新潟NPO協会 参加者:36名	【現状】 自殺対策実務者ネットワーク会議等において、若年層対策について検討した結果、支援者同士のネットワークづくりに重点を置き研修会を実施している。令和4年度からは、コロナ禍で開催が困難であった「いのちを守る超連続勉強会」に名称を変更し、実務者ネットワーク会議のコアメンバーで企画等を行い、連携等をテーマに勉強会を実施している。 【課題】 平成29～令和2年度は若年層への支援をテーマに支援者同士のネットワークづくり等に取り組んできた。今後も、「いのちを守る超連続勉強会」として、これまでの活動や社会の動きを踏まえテーマや活動内容を検討し、実施していく。
普及啓発事業	14	個別	継続	自殺防止キャンペーン	広く市民に自殺予防について啓発するため、自殺予防の啓発グッズの配布や相談窓口の周知を図る。	自殺防止街頭キャンペーン 742セット配布 配布場所:新潟駅(万代口)前広場	新型コロナウイルス感染症の影響により新潟駅前広場での街頭活動を中止 NEXT21アトリウムにてパネルの展示と机上に啓発グッズを設置	新型コロナウイルス感染症の影響により新潟駅前広場での街頭活動を中止 新潟日報メディアシップ1階にてパネル展示と啓発グッズを設置	自殺防止街頭キャンペーン 啓発グッズ1,000セット配布 配布場所:新潟駅(万代口)前広場 3月の自殺対策強化月間に合わせた職員名札での月間周知 3月の自殺対策強化月間に合わせた相談窓口周知のためのポケットティッシュの窓口設置	自殺防止街頭キャンペーン 啓発グッズ1,000セット配布 配布場所:新潟駅(万代口)前広場 9月の新潟市自殺対策推進月間に合わせた職員名札での月間周知	【現状】 自殺防止について、広く市民に対して周知するため、平成21年度から協力団体と共に街頭キャンペーンを実施している。 【課題】 自殺予防のための普及啓発として、市民一人ひとりの気づきと見守りを促すため、どのようなメッセージを発信していくとよいか、周知方法も含め、検討していく必要がある。
民間団体補助	15	個別	継続	いのちの電話補助金	自殺予防を目的に活動している「新潟いのちの電話」の運営費の一部を補助する。	同左	同左	同左	同左	同左	【現状】 電話相談事業を継続して実施するため、運営費の一部を補助している。